



森林は命の砦、大切に守り抜く活動を！

理事長 山本 恵由美

目を覆いたくなる世界情勢に、今年も胸が締めつけられる幕開けになってしまいました。人類はどこに向かっているのでしょうか。そんな命の危機が迫る非常事態では森や自然を守ることなど考えることはできないでしょう。

私たち人類は大きく3つに分類される生物の「植物」、「動物」、「菌類」のひとつ「動物」です。ご承知のように「植物」は光合成をします。その仕組みは細胞内の葉緑素が水と二酸化炭素を原料として太陽の光を使って養分を作ります。**自力で栄養を作れるのは植物だけです。**「動物」は植物から栄養を取って酸素を吸って生きていくことができるのです。肉食動物も草食の動物を食べることで植物の栄養をもらっています。樹木が大きく硬くなる成分のリグニンの分解酵素を持った「菌類」が生まれる前、3億6千万年前の石炭紀には樹木は分解されず、そのまま蓄積され石炭に。その誕生から動物のフンや死骸などの分解者として**森の掃除**をしています。これらが栄養の循環となり生き物の営みを支えています。

社会がどう変わろうとその相互の関係性なくして生物は生きることができない宿命もっています。そんな多様性を活かす神秘的な力が、森林保全活動を長年行ってきたもりメイト倶楽部を突き動かしているのかもしれない。

人間の陣地合戦の傲慢で偏った冷たい砦と違って、森林は壮大な命の交わりを守るユートピアの砦。大切に守り伝えなければなりません。

日本は国土の7割を占める世界第2位の森林大国。森づくりは継続的に人が手を入れることが生物を守る豊かな森を創ることにつながります。過疎や人手不足などの問題を抱えながらも自然環境を守ることができるのはまず「**平和**」が根幹です。活動ができる平穏な日が一日も長く続くことを願ってやみません。

今年度は30代から60前半の比較的若い15人のニューフェイスが加わりました。日本に暮らす人々が協力して森を守っていくことを、どんどん推し進めていける元気をもらっています。

急がず、そして地道に「がりょうてんせい画竜点睛を欠く」ことが無い、最後の肝心な部分が不完全にならないように足元を固めながら、今年もよろしくお願い致します。

